

再生医療の現場で働く人に話を聞きました

interview



製造担当 草田未央 開発担当 田中朋代

本市にある再生医療の企業 株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング (J-TEC)

どのような事業を行っていますか？

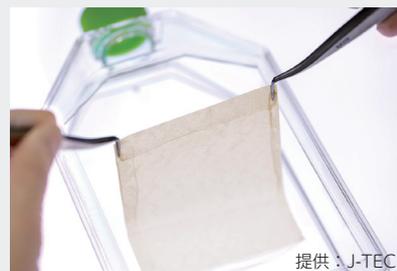
(草田) 再生医療の中でも、患者さん自身の細胞から作る再生医療製品の事業を展開しています。患者さん自身の細胞を使うため、拒絶反応が少ないのが特徴です。実は、当社は日本で初めて再生医療の製品を作ったんですよ。

再生医療は、製品を作る企業と手術をする医師が連携しなければ成り立ちません。再生医療を用いた治療ができる医療機関が近くにあって連携できるのはうれしいことです。

これまでに開発された製品について教えてください。

(田中) 当社では皮膚、ひざ軟骨、角膜領域で再生医療製品を開発・販売しており、私は白斑※の治療に使われる皮膚の細胞シートの開発責任者をしています。正常な皮膚から取った細胞をフラスコの中で増やして、移植することで色素の再生を目指すものです。細胞には個人差があり、増え方などに差があります。ばらつきのある細胞から、製品を作るのが開発・製造の難しさです。

※皮膚の色素細胞が何らかの原因で減少・消失し、皮膚の色が白く抜ける病気



提供：J-TEC

細胞シート

やりがいを教えてください。

(草田) 生きている細胞を扱うため、作業は365日行います。計画どおり細胞が増えるよう、大切に育てています。患者さんの細胞を預かっているというプレッシャーはもちろんありますが、生きた細胞に触れて患者さんを救えるのは、再生医療ならではの魅力です。



提供：J-TEC

再生医療にはどんな可能性がありますか？

(田中) 再生医療の技術は日々進歩しており、今後、より多くの病気に対する治療ができるようになると思います。再生医療を含めた医療全体の技術が発展することで、立体的な臓器を作れるようになるかもしれません。再生医療の技術者として未来の医療に貢献できるよう、研究を続けていきます。